

【水の作文大賞】※【環境大臣賞（優秀賞）】受賞

ふるさとの水物語

熊本大学教育学部附属中学校 一年 樋口 頌子

私達家族は今年四月、富山から熊本に引っ越してきました。十一年間過ごした富山は家から立山連峰が一望でき、そこからの雪どけ水で水道をひねればいつでもおいしい水が飲めます。そのおいしい水で炊きあげたご飯と富山湾で獲れた魚の食事は私の大好物であり、また私をここまで育ててくれた命の源でした。

新生活は水のイメージとは正反対の「火の国」熊本。私はおいしい水がまた飲めるのか心配でした。

しかし、実際飲んでみると、熊本の水はとてもおいしいのです。そこで私はこのおいしさはどこからくるのか興味を持ち調べてみました。

熊本の水道水は阿蘇西麓から川へ流れ、森や田畑から地下へ浸透し、バランスよくミネラル分や炭酸分を溶かし込んでおいしい地下水となります。熊本市はその水道水をほぼすべてを地下水でまかなっており、これは世界的にもめずらしいことだそうです。私はこの水のおかげで思ったよりすんなりと熊本になじむことができました。そして、現在九十九パーセントの水道普及率の日本ではどこでも蛇口をひねれば安全な水が飲めるのだと改めて気付かされました。

水について調べていくうちに、富山と熊本の水に関する悲しい過去の共通点を見つけました。それは公害です。

富山の神通川上流の鉾山から排出されたカドミウムにより汚染された川水や農地に実った米などを通じて多くの人々が苦しめられたのがイタイタイ病です。富山では小学校での授業だけでなく資料館を訪れたりしてこの病について詳しく学びました。

熊本にも同じく水の汚染により苦しめられた過去がありました。水俣病です。これは、チソ工場から海に流れ出たメチル水銀が海にいる魚

や貝などに入り、それを食べることにより引き起こされた病です。

二つの病はいずれも日本の四大公害の一つとなり、経済成長と引きかえに大きな犠牲を払った教訓として二度と同じ過ちを繰り返すことのないよう語り継がれています。

私は富山で忘れられない水の風景があります。それは黒部ダムです。日本の急速な経済復興に伴う関西の深刻な電力不足解消のため造られた黒部ダムは、その建造を大量の水と土砂に苦しめられ、七年の歳月、延べ一千万人の人手そして一七一名の犠牲により完成しました。その歴史を知った上で訪れた黒部ダムを自分の目で見たとき、私はその壮大な姿に圧倒されました。ダムの放水は日本一の落差で、落水からあがるひんやりした水煙とゴーツというお腹に響くような音に包まれます。六十年代前、多くの苦勞と犠牲を強いた水は今、人々の生活を支え、日本を代表する観光スポットとなり、感動を与える存在となっています。そしてこの黒部ダムの風景は私にとって忘れられないふるさと富山の思い出として心にとくと刻まれています。

きつと日本全国、どこでも私たち人間と水にまつわる歴史・物語があつて、昔から人間はそれぞれのふるさとで工夫し、苦勞し、水と共に生きてきたのです。ふるさとの水の歴史を学ぶことはふるさとそのものを知ることになるのだと思います。

これから私はここ熊本の水について学び、熊本のすばらしい水の風景を見ていきたいと思います。私のふるさととなる熊本についてもっと知りたいと思います。そして先人たちが作りあげた水の物語を守り、また未来に語り継いでいかなくはなりません。